

Title	韓国教会のデモクラシーへの寄与 : 「解放」後の長老派教会を中心に
Author(s)	高, 萬松
Citation	聖学院大学総合研究所 Newsletter, Vol.22-No.1, 2012.9 : 5-6
URL	http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/reps/modules/xoonips/detail.php?item_id=3998
Rights	



聖学院学術情報発信システム : SERVE

SEigakuin Repository and academic archiVE

韓国教会のデモクラシーへの寄与 —「解放」後の長老派教会を中心に

高 萬松

はじめに

聖学院大学総合研究所とソウルの長老会神学大学は「日韓関係100年（1910-2010）と日韓キリスト教会の交流」に関する3年間にわたる日韓共同研究を実施している¹。本年度は第3年度にあたり、1945年以降の教会とデモクラシーとの関係に焦点があてられる。よって、本研究ノートは1945年8月15日以後、韓国教会が「建国」を巡ってどのように考え、また「デモクラシー」についてどのような理解を持っていたのかについて考察したい。そのために、本稿ではソウル永楽教会の元牧師・韓景職の思想を見る。彼が「解放」と「朝鮮戦争」を経験し、教会と社会にキリスト教的影響を及ぼしたからである。近年「韓景職研究の観点—基督教的建国論」という題の論文が出ているが²、本稿の観点で言えばその中には彼における民主主義の理解が欠如している。

1 建国とキリスト教

1945年8月15日の「解放」以降から1950年代前半まで韓国のキリスト教新聞には「建国」という言葉が二つの意味で用いられている。一つは新しい独立国家の「建国」である。それは日本の植民地支配からの「解放」による必然的事柄である。もう一つは共産主義に対立する民主主義国家の「建国」である。

その両者の共通点は政治や社会全般に蔓延していた混乱である。「解放」は韓国人自らの力で獲得したものではなく、他の力によって急に与えられた。韓国社会は準備なしの「解放」を迎えなければならなかったが、3年後の1948年8月によりやく大韓民国政府が樹立された。そして1950年6月に勃発した朝鮮戦争による混乱も韓国社会を揺り動かした。1953年に休戦協定が調印されたが、

その結果朝鮮半島は分断された。そのような混乱期にキリスト者は何をすべきかが課題であった。

韓国の長老派教会の機関紙『基督公報』は「建国」を巡るキリスト者の任務に強い関心を持っていた。「基督教の韓国的使命」という題の社説は、建国の担い手がキリスト者であると強く主張している。その新聞によれば当時は次のようにキリスト教を批判する社会風潮があった。すなわち、「今日の韓国社会では韓国キリスト教を新文化の反逆者と烙印を押し、時代遅れの教会は既に韓国民族の文化と生活を指導できない」という批判であった³。そのような批判があったにも関わらず、韓国キリスト者は「民主国家はキリスト者を基盤にしなければならない」と認識している⁴。なぜなら、韓国キリスト者は教会を通して半世紀以上の経験を重ねて来たからである。すなわち、「民主主義訓練」⁵がそれであったのである。

2 民主主義の根本精神

「新興国 [である] 韓国は国際連合の監視の下でデモクラシーを指向する国である」⁶。1952年の韓国のキリスト教新聞にはこう述べられている。そのときは朝鮮戦争の最中であったが、韓国の教会はそうのようにデモクラシーを願っていた。この言葉の通り、韓国でデモクラシーが正しく執行されたかどうかは歴史の証によるしかない。

実際に李承晩大統領時代、彼がキリスト者であったという理由で、教会は彼に暗黙的に民主主義の政治を期待していた。キリスト教新聞は彼の言う「敬天愛人」という言葉に注目し、「李大統領が建国の偉業を成し遂げることにはその政治的才能によるのではなく『敬天愛人』の信仰に由来する。……敬天愛人は神を愛し隣人を愛しなさいというイエスの教えである」⁷と李承晩の建国理念を賞賛している。しかし李承晩は1960年4月19

日に起きた「学生革命」によって大統領職を辞任しなければならなかった。「不義に抗した〔1960年〕四・一九民主理念を継承して、祖国の民主改革と平和的統一の使命に立脚し、正義、人道および同胞愛をもって民族の団結を強固に」⁸するという大韓民国憲法の文句を見ると、「建国」の担い手としての韓国教会の役割には疑う余地がある。

一方、独裁政治と言われている朴正熙大統領の時代の1971年に「大統領のための祈祷会」における韓景職の説教は意味深い。そこで韓景職は民主主義の根本思想、秩序と法の尊重、そして国民の道徳的品位について説教している。第一に民主主義の根本思想について、彼は「神が宇宙を造り、その秩序を維持するために自然法則を置き、義の根本理念に、人間の尊厳、自由、平等があります」と語った⁹。重要なことは、それらの民主主義の思想の根源に聖書があると語ったことである。第二に韓景職は秩序と法の尊重思想の背景にもキリスト教があると次のように述べている。「法の根源は神の公義から起因し、法の尊厳と永遠性もこの宗教的真理に起因します」¹⁰。第三に自由を正しく扱うことの出来る「国民の道徳的品格」の必要性を強調している。そのために必要な、誠実、真実、公正、慈悲、寛容、責任感などの徳目は、結局、イエス・キリストによる回心によって派生されたと見、彼は民主国家の基盤がキリストであると結論づけている¹¹。このような民主主義についての韓景職の思想は、1946年から1992年までの説教が収録されている彼の説教集の全編に貫いていると言ってよい。

結び

1945年8月15日の「解放」後、韓国キリスト者は「建国」の担い手としての自覚を持っていた。そして教会はキリスト教による「民主主義」の確立のための役割を全うしようとしたのである。

- 1 詳細については以下を参照。「日韓教会交流史研究—日韓併合100年を経た将来へ向けた日韓キリスト教会の協力基盤の形成に向けて」、『聖学院大学総合研究所 NEWSLETTER』19巻5号、聖学院大学総合研究所、2009年、40頁。
- 2 李恵貞「韓景職研究の観点—基督教的建国論」、『韓国基督教と歴史』（30号、2009年）、韓国基督教歴史研究所、1-14頁 [이혜정 <한경직연구의관점>, 「한국기독교와역사」 한국기독교역사연구소]。
- 3 『基督公報』（1953.2.4）、1頁。
- 4 同上書。
- 5 同上。
- 6 『基督公報』（1953.2.16）、1頁。
- 7 『基督公報』（1952.3.31）、1頁。
- 8 高橋和之編『世界憲法集』岩波書店、2009年、333頁。
- 9 韓景職『韓景職牧師説教全集第12巻』韓景職牧師記念事業会、2009年、376頁。
- 10 同上書、378頁。
- 11 同上、380頁。

（こう まんそん 聖学院大学総合研究所助教）